



旧アルファビゼン 跡地利用ワークショップ

令和4年7月31日（日）、8月3日（水）

「旧アルファビゼン跡地利用のワークショップ」

開催日：7月31日（日）、8月3日（水）

場 所：備前市役所

参加者：両日で合計35名



「夏まつり」をテーマとした会場の様子

7月31日（日）



当日は、4グループにわかれ、和やかな雰囲気のもと「びぜんの『未来』をイメージしよう!」というテーマで話し合いがもたれました。

ファシリテーター（進行役）を務めた市の職員は、はっぴを着て会場の雰囲気を盛り上げました。

8月3日（水）



グループワークでは、

- ①自分ばかり話しません。
 - ②頭から否定しません。
 - ③楽しい雰囲気を大切にします
- の3つのルールのもと、終始リラックスしたなかで闊達な意見交換が行われ、限られた時間の中で話し合いが進められました。

最終的にまとめられた「3つの一押しアイデア」には、イラストを描くなどの工夫が見られ、グループごとに特徴のある発表となりました。

ワークショップの様子①

「びぜんの『未来』をイメージしよう」をテーマに、アイデアをそれぞれ付箋に書き出し、グループのみんなで意見を共有しました。



ワークショップの様子②

多くのアイデアから話し合いにより「3つの一押しアイデア」を選び、グループごとに発表を行いました。



「3つの一押しアイデア」◆

7月31日(日)

1班

- 1 外から使えるトイレがある。皆がなんでも自由に使えるスペース。(キャッシュコーナー、バス停)
- 2 耐火レンガなど備前の素材を使って、2階以上の防災機能を持った建物、設備。(医務室、シャワー室、宿泊)
- 3 空きスペースに専門学校(医療、介護、IT)、日本語学校など学べ、人が片上に来る。(若い人)

2班

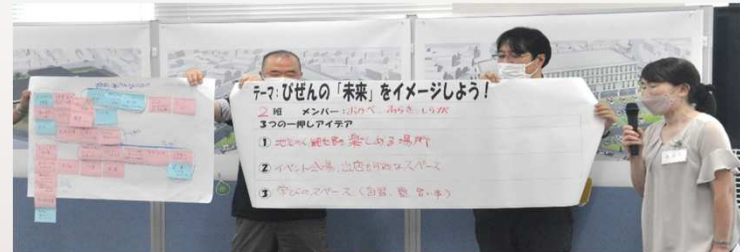
- 1 地元の人、観光客も楽しめる場所。
- 2 イベント会場、出店も可能なスペース。
- 3 学びのスペース。(自習、塾、習い事)

3班

世代を超えた交流が出来る、尚且つ、子供や学生を大切にするハード&ソフトにすることで、活発な利用がのぞめ、更には移住促進につながり、備前市の未来が明るく豊かになる。という方向性を持った施設。

4班

- 1 みんなが集まって、色々な情報(片上の観光情報等)やモノ(古本や野菜など)が手に入る場所。
- 2 気軽につどえて、軽食が取れる場所。
- 3 学生が放課後に立ち寄れて、ゆっくりできる場所。



「3つの一押しアイデア」◆

8月3日(水)

1班

- 1 外の広いスペース。
- 2 24H営業の飲食店。(スペース)
- 3 日中運動できるスペース。

2班

- 1 立ち寄りたくなる場所。(幼児、子供、高校生、大人たち)
→他市からも人流を生む
- 2 拠点(ハブ)としての施設。(市役所、市民センター、銀行、図書館、郵便局)
- 3 親子の絆を紡ぐ場所。

3班

- 1 片上まるごと活性化。(市役所から商店街、巡回バス)
- 2 全世代に喜ばれるマルチ拠点。
(たくさんのプログラム、趣味いっぱい&デイケア)
(スポーツ、ボルダリング、ラウンドワン、アート、プロジェクションマッピング)
- 3 防災にも教育にも役立つスーパーグローバル拠点。
(ワークショップ、外国の方、不登校、引きこもりの方、共生社会)

4班

- 1 地元の人でも観光客も来なくなる全世代が楽しめる施設。
(子供の遊具、バーチャル花火大会、バーチャル水族館、健康スペース、日本一美しい図書館)
- 2 300年後もそこにある施設、伝統を守りつつ未来へ。
(シンボルツリー、子どもたちの植樹)
- 3 市民の命を守る、防災拠点。



おわりに



今回のワークショップは、旧アルファビゼンの跡地利用について、備前市民及び備前市在勤者から直接ご意見をお聞きしたいとの思いで開催しました。

二日に分けて開催させていただきましたが、多数の方にご参加いただき、また、熱心にご議論いただきました。ご参加いただいた皆様には感謝申し上げます。

今後は、いただいたアイデアやご提案など、皆様の思いをしっかりと受け止めながら、旧アルファビゼンの跡地活用事業を進めてまいります。

備前市 市街地活性化政策課